



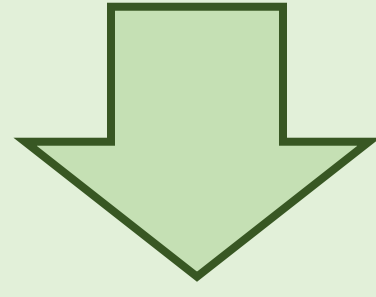
地域資料データの継承とオープン化を目指した地域横断型データ共有基盤の構築



佐藤 琴 小幡圭祐(山形大学博物館) 堀井 洋 小川歩美 堀井美里(合同会社AMANE)
榎本千賀子(新潟大学) 櫻澤孝佑(Oku-Mock) 高田良宏(金沢大学)
大月希望(東京大学大学院・合同会社AMANE) 卓 彦伶(北海道大学大学院)

背景：地域資料データをとりまく困難さ

- 2000年代以降、個人が大量のデジタルデータを日常的に生成する時代に。
- 映像・画像データなど、地域MLAでは大量のデータを蓄積・保存してる。
- デジタルデータは非常に脆く儚い。「数十年後に偶然発見」は、ほぼない。
- 国内では、安定的・持続的な資料データ保存基盤は未整備である。



地域資料データを将来へ継承するための社会的な基盤が必要ではないだろうか？

本課題の実施構成

1. 複数地域の連携・横断による「分散型地域資料データストレージ」の構築

- 地域資料を対象としたデータ生成・保存の検証
- 地域における新たな資料の記録・データ化
 - 資料データ生成におけるフォトグラメトリ技術等の新技術の適用検証
 - 社会および学術分野における活用を想定した資料データの生成



山形・奥会津・夕張地域における調査・検証

2. 地域資料データの積極的利活用に向けた仕組みの検討

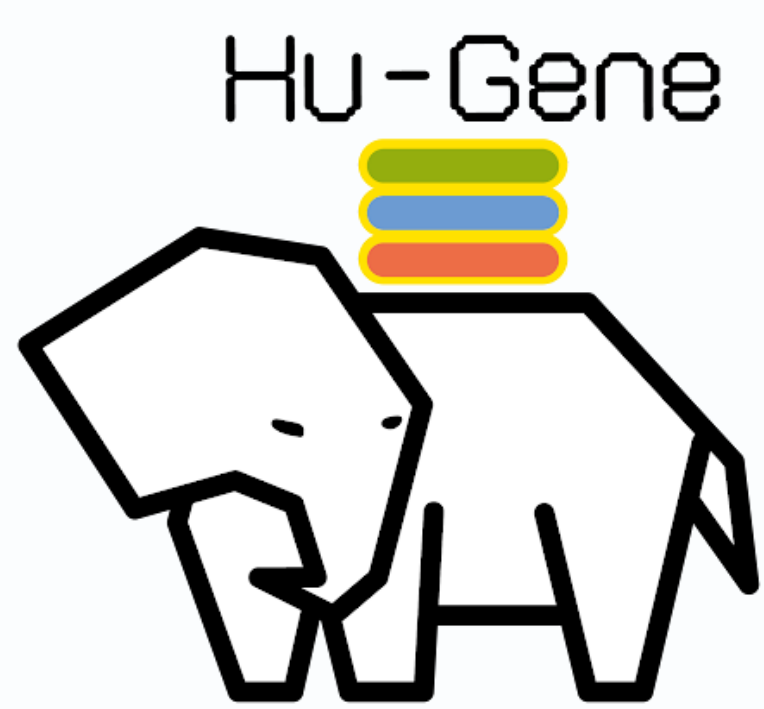
- 研究データ基盤との接続・連携
- GakuNin RDMへのデータ連携
 - GビズID等を利用した多様な研究データ利用環境への参加

- 社会に対する地域資料データの公開・活用
- 地域資料デジタルアーカイブの公開
 - IIIF形式等の機械可読な資料データの公開
 - 活用ワークショップ・JOSS (Japan Open Science Summit) での地域資料データセッションの開催

- 地域資料データの社会的利活用に向けた取り組み
- 地域資料データの利用・流通に関する法的検討(権利および義務範囲の明確化)
 - 地域資料データ継承コミュニティ「Hu-Gene」の構築



地域資料デジタルアーカイブ：山形アーカイブ



地域資料データ継承コミュニティ「Hu-Gene」

本研究の目的

1. 複数地域の連携・横断による「分散型地域資料データストレージ」の構築

1 地域あたり数10~数100TB規模のデータ容量を想定したデータストレージを各地域に配置し、広域VPNを介して相互にミラーリング・共有する仕組みを構築する。蓄積した地域資料データについては学術研究利用の促進を目的として、JAIRO Cloud等の公開基盤を通じた提供や、既存の学術デジタルアーカイブ・研究データ基盤と接続する。

2. 地域資料データの積極的利活用に向けた仕組みの検討

地域に分散して現存する資料画像・映像・音声などの地域資料データを対象として、それら存在を網羅的に把握する。さらに、学術研究分野をはじめとした社会における積極的な地域資料データの利活用とオープン化を促進するための仕組みについて、学術研究・技術開発・社会的な枠組みなど多面的かつ実践的な検討および実装を目指す。

- 分散型地域資料データストレージの構築
- 高精細3Dデータ等の大規模資料データの生成・検証
 - 複数地域を繋いだデータ保存環境の構築
 - 複数の機関における地域資料データの共有

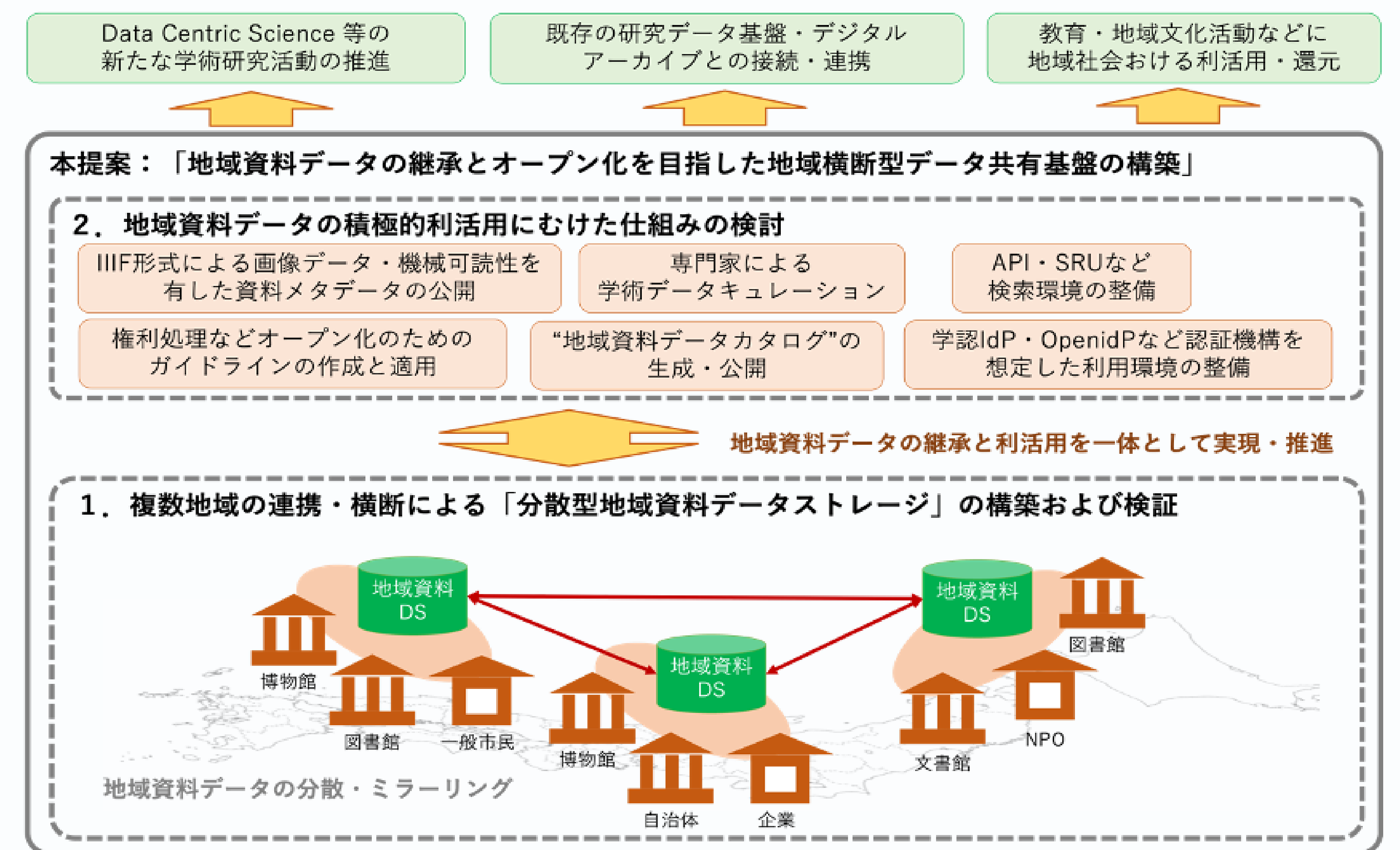


ゲンペイ(福島県金山町) フォトグラメトリ



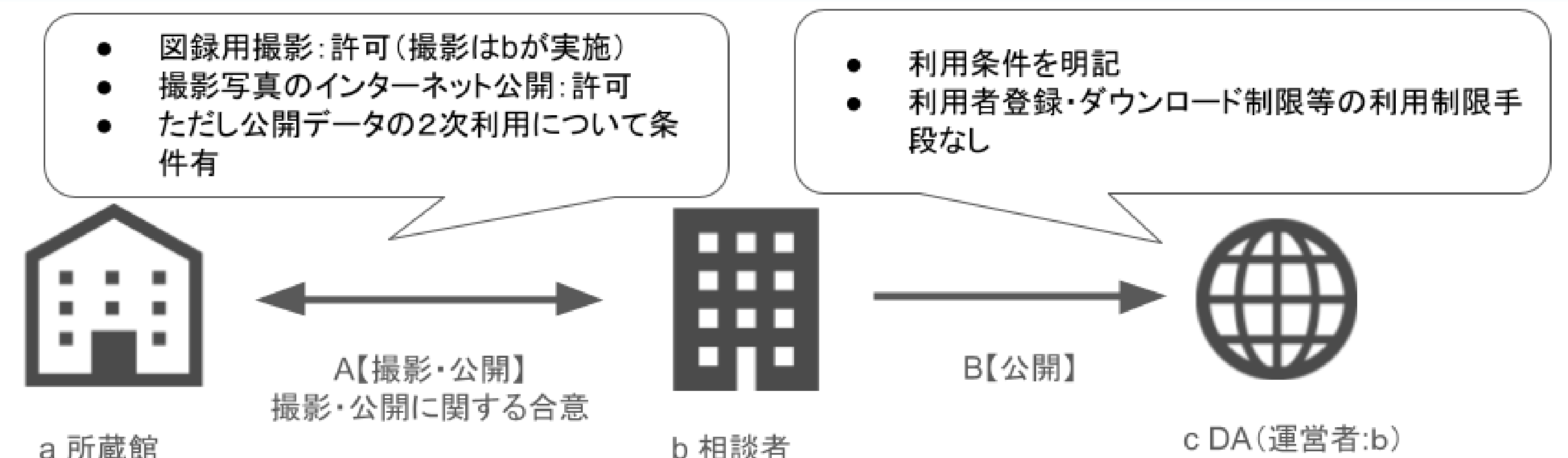
地域資料データの共有環境

分散型地域資料データストレージの概要



地域資料データの利用・流通に関する法的な取り扱いに関する検討

資料のデータ化・利用における関係を構造化することで、権利や義務の範囲を明確化契約や規約の雛形を作成し、法律の専門家からの確認や検討を行う。



- このような公開方法は、合意Aに沿った公開と見做せるか
- 公開データの利用者が利用条件を守らなかった場合、bは責任に問われるのか
- 法的な妥当性を有した資料データ利活用に関するルールについて、検討を行う

他館所蔵資料データの2次利用制限への対応に関する検討